



波紋

発行所 教育活動総合サポートセンター
 〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
 E-mail support0731@luck.ocn.ne.jp
 URL <http://www.kks-support.sakura.ne.jp/>



「こども家庭庁」 来年4月創設

6月15日参議院本会議で「こども家庭庁」設置法案が可決、成立しました。こども家庭庁は、「こどもが自立した個人としてひとしく健やかに成長することのできる社会の実現に向け、子育てにおける家庭の役割の重要性を踏まえつつ、子どもの年齢及び発達に応じて、その意見を尊重し、こども及びこどもの家庭の福祉の増進及び保健の向上その他のこどもの健やかな成長、及びこどもの家庭における子育てに対する支援並びにこどもの権利利益の擁護に関する事務を行うこと」を任務として設置されました。

今後、こども家庭庁がNPO等と連携し、不登校のこどもへの支援を含め、こどもに関わる施設やこども食堂、学習支援の場をはじめとする様々な居場所づくりなどに係る事務を担っていくと思われます。文部科学省との一元化は見送られましたが、「いじめ」や「不登校」等の対応については、文部科学省と連携を図りながらそれぞれの強みを生かしつつ、こども施策の充実を図っていただきたいと思います。

第1回会計担当者会 (5月30日)

令和4年度の会計担当者会が市教育会館で行われました。小泉顧問税理士から2点お話がありました。一つは、「車代」という支出項目が時代に合わなくなっている、交通費が謝礼金として処理するようにというご指摘です。二つ目は、令和5年からインボイス制度が始まることに関連して、来年度から消費税がNPOも納税が猶予されない。そのため、見積り目の段階から事務経費として10%計上できるように委託元などと交渉してほしい。という内容です。その後、今年度の会計処理について清水主任から説明があり、共通理解を図りました。



第1回研究協議会



6月3日(金)市教育会館で、岡田守弘委員長をお招きして、今年度第1回の研究協議会が行われました。まず、研究内容やテーマについてAグループから提案がありました。次に、子どもの声を聴く(アンケート)についてBグループから提案がありました。2つのグループの提案、協議の内容を受け、岡田先生から次のような指導助言をいただきました。

●NPOサポートセンターを設立した時に掲げたスローガン「子たちに力を」から20年が経過した。最初は学校を、先生方を、助けたいという思いが込められたスローガンだったと思う。今では、子どもたちの力を引き出す、内在している力を伸ばすという意味合いも生まれてきた。

●「レジリエンス教育」という言葉も協議されたが、これはマル、これは

バツというようなスキル主義に偏らないようにしてほしい。

●アンケートについては、サポートセンターの研究は「質的・実践的研究」なので、アンケート調査より「子どもの声を聴く」というスタンスが良いと思う。

●テーマについては、コロナ感染症、在宅勤務の影響、ギガスクールなどの進展など踏まえ、もう一度「不登校とは、何か」を考えてみるのも良いのではないかと。

★次回の研究協議会は、8月26日(金)に14:00から高津市民館で行われる予定です。



学校サポーター研修会

6月24日(金)午前・午後、28日(火)午前・午後の4回に分けて今年度の第1回学校サポーター研修会が総合教育センターを会場に行われました。今回の講師は、特別支援教育支援センターの中澤英之指導主事と里恵子指導主事です。

両指導主事からは「支援の必要な児童生徒をサポートするために」という演題で、一人ひとりの教育的ニーズに応じてどのような対応をしたらよいか、途中グループでの話し合いを入れながら具体的な内容の講演が展開されました。



サポーターの皆さんは講演や話し合いを通して、子どもの支援についてさまざまな気づきがあったようです。一部、感想を紹介します。

●サポーター活動を始めて2年経つのですが、まだまだ分からないことだらけです。本日の研修で、人の認知様式には「同時処理タイプ」と「継次処理タイプ」があると知り、それにより対応の仕方が違うということがわかったので実践してみたいと思いました。

●文字の読み書きに困難を抱えている子どもの「文字の見え方」には驚きがありました。そのような子どもの具体的な支援について考える中で、サポートの重要性について身をもって感じることができました。先生にとっては手のかかる困った子どもに見えても、実は「困っている子ども」なのだという考え方に変わりました。

●3か月間サポート活動をしてきましたが、子どもとのかかわり方をどのようにすれば良いか悩み、難しいと感じることが増え、本当に自分が教師になっても良いか不安になることもありました。今回、「子どものことを理解しようとする熱心な人」を子どもは求めているという話を聞いて、難しく考えず、子どもの話を受け止め、「ほめる」「励ます」「認める」という貯金を重ねて子どもとの関係を築き、子どもの課題の背景にあるものを考えていくことが必要だと感じました。



●子どもからの「シャープペン、使っていいよね」という問いかけに、サポーターは、「それは学校のルールだからダメ」などと、正論で答える必要はないという話にとっても納得しました。「なぜ、そう思うの?」「いつからそう思っていたの?」というように対応していた方が、確かに、子どもとの対話が広がると感じました。

24日、28日、ともに外は30度を超す暑さの中での研修でしたが、涼しいセンターの中では、サポーターの皆さんの“熱い”話し合いが続いていました。

出前科学教室

6月16日(木)西梶ケ谷小学校で、「バランストンボ」作りが行われました。3.4年生19名が参加し、バランスをとるのに苦労しながら、トンボや鳥などを楽しそうに作っていました。6月22日(水)梶ケ谷小学校では「ふかぶか方位計」の出前科学教室が行われました。



方位計の仕組みに子どもたちは驚いたり感心したりしていました。次回の出前科学教室は、10月6日(水)梶ケ谷小学校、10月25日(火)西梶ケ谷小学校、11月9日(水)東住吉小学校で行われる予定です。

7月の行事予定

1	金	学習支援幸・日吉
2	土	サイエンスキッズ準備会
3	日	
4	月	事務局打合せ④
5	火	中原区保護者M③、学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
6	水	研究部会④、日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子・幸区連絡会
7	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延
8	金	事務局会13時、役員会15時、学習支援幸・日吉教室
9	土	寺子屋ハッピータウン分教室
10	日	
11	月	学習相談部会④
12	火	学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま
13	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、寺子屋富士見っ子
14	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延
15	金	学習支援幸・日吉教室・南野川進路学習会
16	土	支援を必要とする子の保護者の会①(宮ノ下)・寺子屋上作延体験活動
17	日	
18	月	海の日
19	火	学習支援川崎教室・寺子屋さぎぬま
20	水	日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室、大山街道ふるさと館経営委員会14:00~プラザ
21	木	学習支援川崎教室、寺子屋上作延
22	金	学習支援幸・日吉教室
23	土	寺子屋ハッピータウン分教室、寺子屋さぎぬま体験活動、寺子屋富士見っ子
24	日	
25	月	キッズセミナー①
26	火	キッズセミナー②、学習支援川崎教室、寺子屋さぎぬま体験活動
27	水	キッズセミナー③、日本語支援東小倉、学習支援幸・日吉教室
28	木	キッズセミナー④、学習支援川崎教室
29	金	学習支援幸・日吉教室
30	土	
31	日	